佐久市埋蔵文化財調査報告書　第194集

番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ

長野県佐久市猿久保番屋前遺跡Ⅳ発掘調査報告書

２０１１．３
佐久浅間農業協同組合
佐久市教育委員会

例　　言

1．本書は佐久浅間農業協同組合によるＪＡ佐久浅間本所建設工事に伴う番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅳの発掘調査報告書である。
2．事業主体者　佐久市猿久保882　佐久浅間農業協同組合
3．調査主体者　佐久市中込3056　佐久市教育委員会　教育長
4．遺跡名及び発掘所在地　　番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ（ＳＢＹＭⅣ）
　佐久市猿久保882-１の一部
5．発掘担当者　現場・整理作業　出澤　力
6．本書の編集・執筆は出澤が行った。
7．本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1．遺構の略称は以下の通りである。
　Ｔａ－竪穴状遺構　　Ｆ－掘建柱建物址　　Ｄ－土坑　　Ｐ－ピット　　Ｍ－溝状遺構
2．スクリーントーン表示は以下の通りである。
　遺構　　地山断面
3．挿図の縮尺は以下の通りである。
　遺　構　　竪穴状遺構・掘建柱建物址・土坑・井戸跡・柱列・溝状遺構　1/80
　遺　物　　陶器1/2　　鉄製品1/3　　石製品1/3・1/6　　古銭1/1
4．遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5．遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6．土層は「新版　標準土色帖」による。
7．調査グリッドは小グリッド４×４m、大グリッド40×40mである。

目　　次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯……1
　第１節　立地と経過……1
　第２節　調査体制……2

第Ⅱ章　遺跡の環境……2
　第１節　自然環境……2
　第２節　周辺遺跡……3
　第３節　基本層序……5

第Ⅲ章　遺構と遺物……6
　第１節　竪穴状遺構……6
　第２節　掘建柱建物址……8
　第３節　土坑……11
　第４節　井戸跡……14
　第５節　柱列……15
　第６節　溝状遺構……17
　第７節　遺構外遺物……18

写真図版
抄録

番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ調査全体図（1：250）

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　立地と経過

番屋前遺跡は北から南流してきた湯川が、岩村田市街地の南方を回り込むように流れを西方に変える左岸第２段丘上の緩やかな南方向に傾斜する台地上に展開する。標高は694m内外を測る。周辺遺跡の状況は、湯川に近い台地には多くの遺跡が所在し、特に台地の縁辺部に近づくほど、遺構の密度が濃くなる傾向が認められ、発掘調査も数多く行われている。近年の調査としては、今回調査区の北東で平成20年に野馬窪遺跡の調査が行われ、平安時代の竪穴住居址、中世の竪穴建物址、掘建柱建物址、土坑、ピット等が発見された。また、番屋前遺跡群内では平成10年に調査区東に隣接する番屋前遺跡Ⅲの調査によって、中世の竪穴遺構・土坑・溝状遺構・柱穴及び陶磁器等の遺物が発見されている。

今回、佐久浅間農業協同組合によるＪＡ佐久浅間本所建設工事が行われることとなり、平成21年に試掘調査を行った。その結果、中世と考えられる遺跡が発見されたことから、建物建設により遺構の破壊が予測される地域の発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり、遺跡の記録保存を目的として実施した。

番屋前遺跡Ⅳ
佐久市役所
佐久市消防署
佐久平ゴルフ場
佐久城山
佐久平駅
佐久平環境衛生センター
佐久総合病院
佐久長聖中
佐久平PA
佐久平駅
佐久平工業団地
佐久平ふれあいセンター
佐久平図書館
佐久平ふるさと公園
佐久平ふるさと公園
佐久平ふるさと公園

第２節　調査体制

平成21年度

調査受託者　佐久市教育委員会　教育長　木内　清（４～５月）　土屋　盛夫（５月～）

事　務　局　社会教育部長　内藤孝徳（４～６月）　工藤秀康（７月～）
社会教育部次長　金澤英人（４～６月）
文化財課長　森角吉晴
文化財調査係長　三石宗一
文化財調査係専門員　林幸彦
文化財調査係　並木節子　須藤隆司　小林眞寿　羽毛田卓也
冨沢一明　神津　格（４～９月）上原学
井出泰章（10月～）出澤力
調査主任　佐々木宗昭　森泉かよ子

調査担当者　出澤　力
調査員　土屋武士　日向昭次　安藤孝司　渡辺学　中嶋フクジ
渡邊久美子　岡村千代美　小林百合子　細萱ミスズ
小井戸秀元　菊池喜重　浅沼ノブ江

平成22年度

調査受託者　佐久市教育委員会　教育長　土屋　盛夫

事　務　局　社会教育部長　工藤秀康
文化財課長　森角吉晴
文化財調査係長　三石宗一
文化財調査係専門員　林幸彦　須藤隆司　小林眞寿　羽毛田卓也
文化財調査係　並木節子　冨沢一明　上原学　井出泰章
出澤力
調査主任　佐々木宗昭　森泉かよ子

調査担当者　出澤　力
調査員　岡村千代美　小林百合子　小林妙子　橋詰信子　井出孝子
林まゆみ　柏木義雄　臼田猛　澤井知春　清水澄雄　羽毛田利明
細萱ミスズ　渡邊久美子　小幡弘子

第Ⅱ章　遺跡の環境

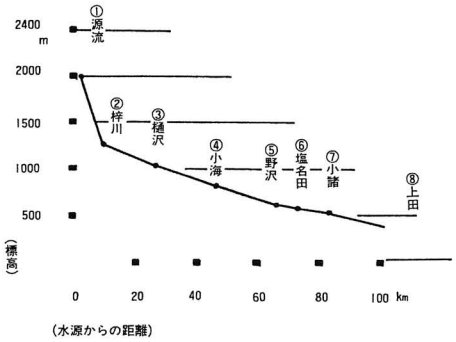
第１節　自然環境

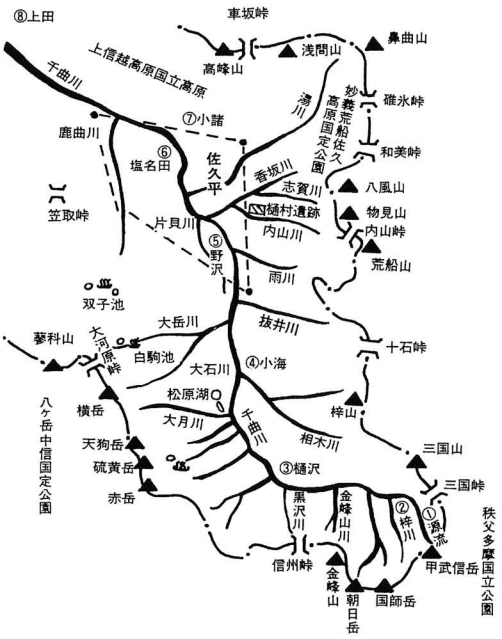
佐久地域は、周辺を山地及び台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれている。北には現在も噴煙を立ち上らせる浅間山が聳え、南には蓼科火山が東西に連なる。東は関東山地が南北方向に連なり、群馬県との境をなしている。西には御牧原・八重原といった台地が広がり蓼科火山群北端の裾野に接している。佐久平水系の代表は千曲川で、源は南方の川上谷に発し、南佐久から北流し、沢筋の支流を集めつつ水量を増し佐久平に注ぎ込む。その後、やや北西に流れを変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の東麓に源を発す湯川、東の関東山地からの田子川、志賀川といった支流を集めた滑津川などと合流し、西方の御牧ヶ原台地急崖にそって長野方面へと貫流する。

このように佐久地域は周囲を山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地が広がっており、佐久平と呼ばれているが、地質学的に見ると南北に大きく二分することができる。この境は佐久平のほぼ中央である東から流れる志賀川が滑津川と合流し、千曲川に注ぐ東西線を境として河川の北側は標高680m、南は660mを測り、20m内外の比高差が存在する。北部地域は、北に聳える浅間山の山麓末端部の南に向かって緩やかに傾斜する台地で、浅間山の噴火によって台地に堆積した火砕流及び降下火山灰で形成されている。この台地は雨水の浸食に弱く、浅間の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り）を形成し、切り立った断崖により台地をおよそ南北方向に細長く分断している。これに対し、南部地域は千曲川の氾濫源沖積地及び滑津川など支流の谷口扇状地で形成され、地表下は河床礫層と沖積粘土層

地帯となっている。

調査対象となった番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅳは、佐久市北部地域の南部に位置し、猿久保地籍の湯川左岸に広がるやや南方向に傾斜する段丘上に展開する。標高は694m内外を測る。

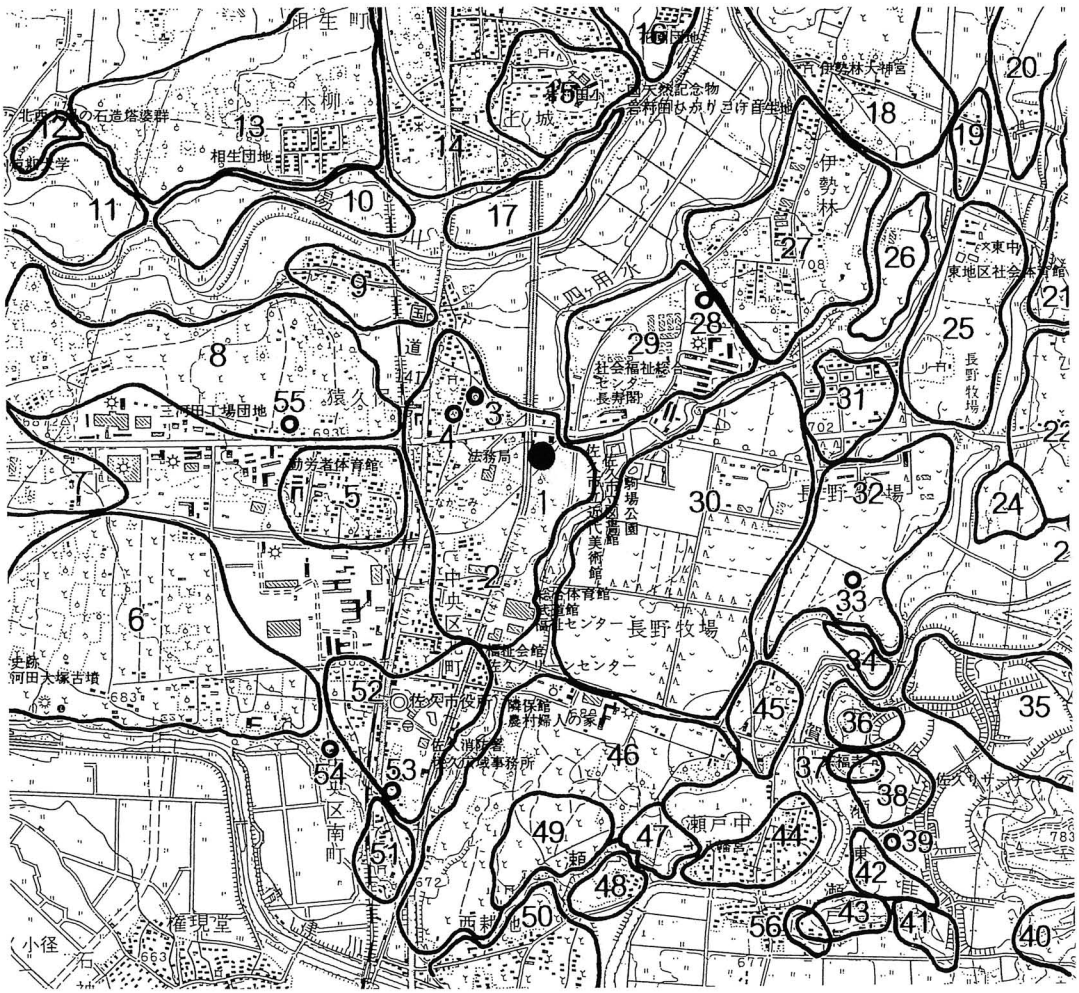




千曲川概念図

報告書1985　「樋村遺跡Ⅱ、遺跡の環境」

第２節　周辺遺跡



周辺遺跡分布図（1:25,000）

番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅳの周辺には、弥生時代から中世にかけての遺跡や遺跡群が点在している。番屋前遺跡群は平成８年に２箇所が調査され、土坑・溝状遺構・柱穴が発見され、遺物は縄文土器片・石鏃・中近世の陶磁器・石器などが出土している。また、平成10年に農業協同組合による店舗建設に伴う、番屋前遺跡Ⅲの調査が行われ、中世の竪穴遺構・土坑・溝状遺構等が発見され、縄文時代の石器、中世の鉄製品・石製品等が出土している。

番号	遺跡名	時　代	所在地	備　考
1	番屋前遺跡Ⅳ	中世	猿久保	今回調査
2	番屋前遺跡群	奈良～中世	中込・猿久保	番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ(H8)、番屋前遺跡Ⅲ(H10)
3	金比羅古墳	古墳	猿久保	
4	御経塚古墳	古墳	猿久保	
5	西妻神遺跡	弥生・平安	中込	
6	中原遺跡群	縄文～中世	中込・横和他	梨の木遺跡（S62・63、H8・9）
7	宮の上遺跡群	縄文～中世	横和・根々井	高根遺跡（S50）、宮の上遺跡（S62・63）根々井芝宮遺跡（H4）、割地遺跡（H9）
8	寺畑遺跡群	縄文～平安	根々井・猿久保	寺畑遺跡（H7）
9	猿久保屋敷添遺跡	弥生～平安	猿久保	
10	中鳴澤遺跡群	弥生～平安	岩村田	中鳴澤遺跡（H7）
11	中西の久保遺跡群	弥生～平安	岩村田	中西の久保遺跡（H7～9）
12	北西の久保遺跡 北西の久保古墳群	弥生～中世 古墳	岩村田	北西の久保遺跡（S57・60） 北西の久保古墳群（S57・60）
13	岩村田遺跡群	弥生～中世	岩村田	東一本柳遺跡（S43・H21・22）、北一本柳遺跡（S47、H15・19・18）、東大門遺跡（H1・21）、西一本柳遺跡Ⅰ～ⅩⅧ(H4～)、柳堂遺跡Ⅱ(H18）等
14	上の城遺跡群	縄文～中世	岩村田	上の城遺跡（S43、H14）、上の城丹過遺跡（S54）、西八日町遺跡（S58）、西八日町遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(H19・20・21)、観音堂遺跡（H9）等
15	藤ヶ城跡	近世	岩村田	
16	下信濃石遺跡	平安～中世	岩村田	下信濃石遺跡（H16）
17	岩井堂遺跡	弥生～平安	岩村田	
18	蛇塚Ａ遺跡	平安	安原	
19	猫久保遺跡群	平安	安原	
20	戸屋敷遺跡群	平安	安原・下平尾	
21	筒畑遺跡群	縄文～平安	安原・新子田	田端遺跡（H1）
22	戸坂遺跡群	弥生～中世	新子田	戸坂遺跡（S46）
23	家之前遺跡	弥生～平安	新子田	
24	鳥坂城跡	中世	新子田	
25	高師町遺跡群	平安～中世	新子田	高師町遺跡（S61・H7）
26	東内池遺跡	平安～中世	新子田	東内池遺跡（S60）
27	蛇塚Ｂ遺群	平安	新子田	蛇塚Ｂ遺跡（S54・58、H6）、野馬久保遺跡（H2・9）
28	野馬窪古墳	古墳	猿久保	
29	野馬窪遺跡群	弥生～平安	猿久保	野馬窪遺跡（S56）、野馬窪遺跡Ⅱ・Ⅲ(H20)
30	馬瀬口遺跡群	弥生・平安	瀬戸・新子田	
31	小池遺跡	弥生～平安	新子田	
32	和田上遺跡群	縄文～平安	瀬戸・新子田	和田上南遺跡（S54）
33	和田上古墳	古墳	瀬戸	
34	和田遺跡	縄文～平安	瀬戸	

35	寄山遺跡群	縄文～中世	瀬戸・志賀	勝負沢遺跡（Ｈ２～４）、寄山遺跡（Ｈ２～４）、寄山古墳群（Ｈ３・４）
36	中条峯城跡	中世	瀬戸	中条峯遺跡（Ｈ１・２）
37	中条峯古墳群	古墳	瀬戸	３基消滅
38	中条峯遺跡	縄文～中世	瀬戸	中条峯遺跡（Ｈ１・２）
39	大日山古墳	古墳	瀬戸	
40	長峯遺跡	縄文	瀬戸	
41	宮の脇遺跡	縄文～平安	瀬戸	
42	南海道遺跡	古墳～平安	瀬戸	
43	城山城跡	中世	瀬戸	
44	中反遺跡群	平安	瀬戸	
45	鷺の宮遺跡	古墳・平安	瀬戸	古墳２基宅地造成により消滅
46	深堀遺跡群	縄文～中世	瀬戸	深堀遺跡（Ｓ40）、瀬戸原遺跡（H10・11）、深堀Ⅲ（H11・12）等
47	八反田城跡	中世	瀬戸	
48	八反田遺跡	平安	瀬戸	
49	瀬戸狐塚古墳群	古墳	瀬戸	2基消滅
50	東千石平遺跡群	古墳～中世	瀬戸	
51	深堀城跡	中世	中込	
52	大塚遺跡群	弥生・平安	中込	
53	中込大塚古墳	古墳	中込	中込大塚古墳（Ｓ43）
54	蟹ヶ沢古墳	古墳	中込	
55	富士塚古墳	古墳	猿久保	
56	屋敷古墳群	古墳	瀬戸	３基消滅

周辺遺跡一覧表

第３節　基本層序

番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅳの位置する地域の、標高は694m内外を測り、全体が北方から南方にかけて緩やかに傾斜する。

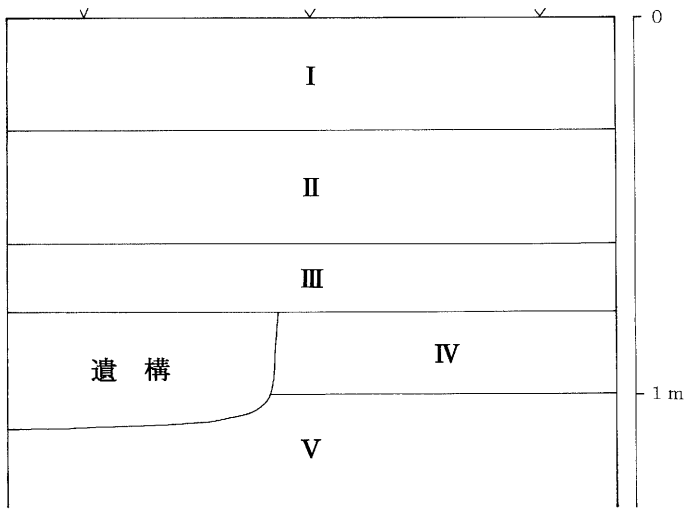
第Ⅰ層は埋土による整地層の攪乱層で、黒褐色土を呈す。全面的に整地による不整合が認められる。

第Ⅱ層は５㎜から１cm大の軽石を多く含む暗褐色土である。

第Ⅲ層はⅡ層同様５㎜から１cm大の軽石を多く含み、一部に下層の地山ロームを含む暗褐色土である。（漸移層）

第Ⅳ層は軽石・小礫等を含む褐色のやや砂混じりのロームである。遺構検出はこの第Ⅳ層上面で行った。

第Ⅴ層は褐色土の砂礫層である。



基本層序模式図

第Ⅲ章　遺構と遺物

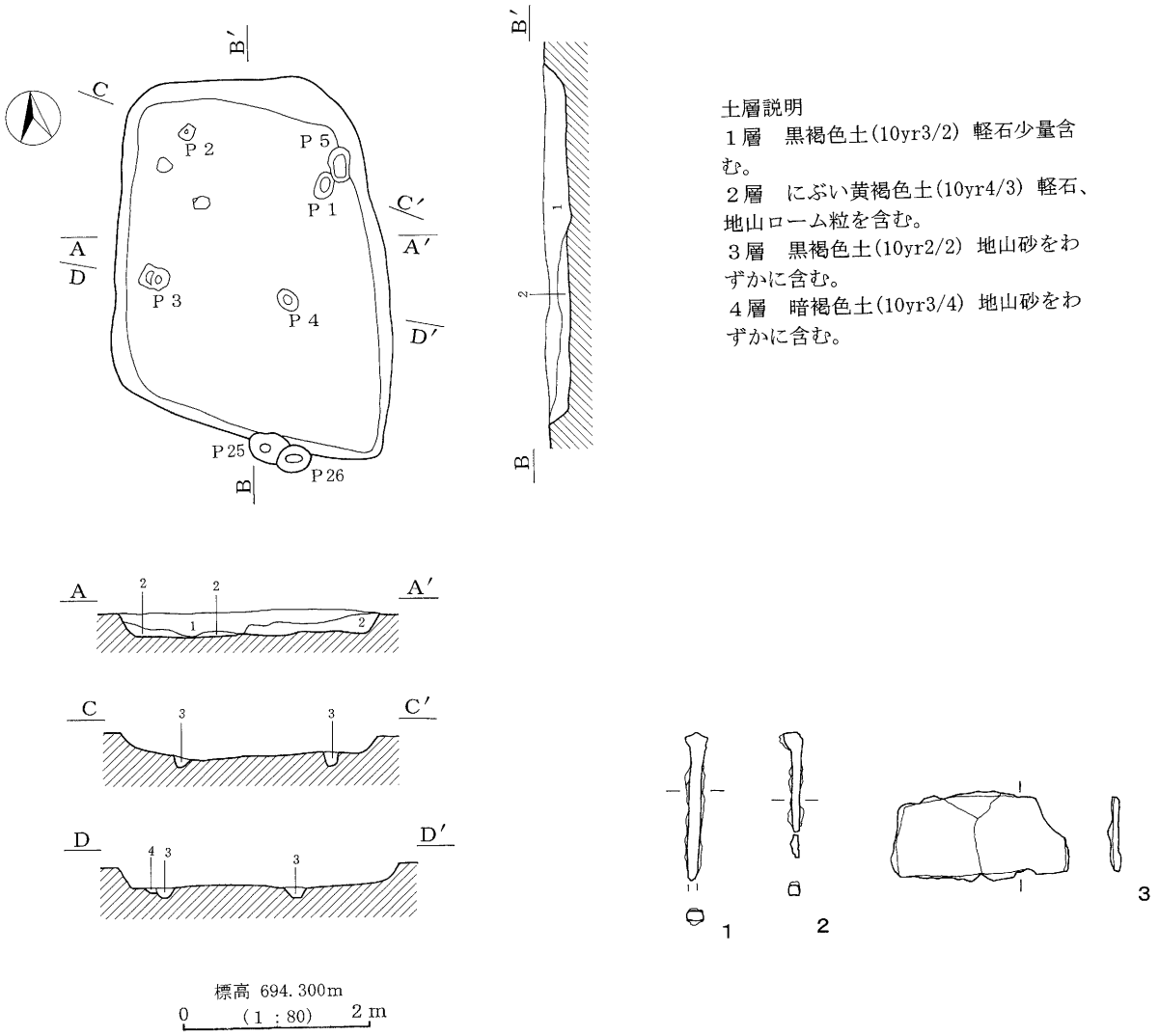
第１節　竪穴状遺構（Ｔａ）

Ｔａ１号竪穴状遺構

遺構は調査区東端のやや北側、え－２グリッド付近に位置する。遺構の規模は西壁3.6m、東壁4.0m、北壁2.2m、南壁2.8m、深さは25cm内外を測る。平面形態はやや不整な南北方向に長い長方形である。遺構の埋まった状況を示す覆土は２層で、南側及び東西方向から埋まり始めた状況が窺える。底面はほぼ平坦だが貼床状の硬質な面はほとんど認められない。ピットは底面にて５個発見された。規模は直径20～40cm、深さは30cm内外を測る。

遺物は鉄製品が３点出土した。１・２は角釘で、３は板状鉄製品である。３の板状鉄製品については正確な用途は判別できなかった。

時期については、周辺の遺跡状況及び遺構の形状、出土遺物から中世（鎌倉・室町）としたい。



Ｔａ１号竪穴状遺構実測図

番号	器　種	器　形	長さcm	幅cm	厚さcm	備　考
1	鉄製品	角釘	6.05	1.06	0.77	断面方形、先端部欠損、重量 8.24ｇ
2	鉄製品	角釘	[4.61]	1	0.54	断面方形、先端部欠損、重量 3.26ｇ
3	鉄製品	板状不明品	3.58	7.34	0.4	全体的に薄く両端部欠損、重量 19.38ｇ

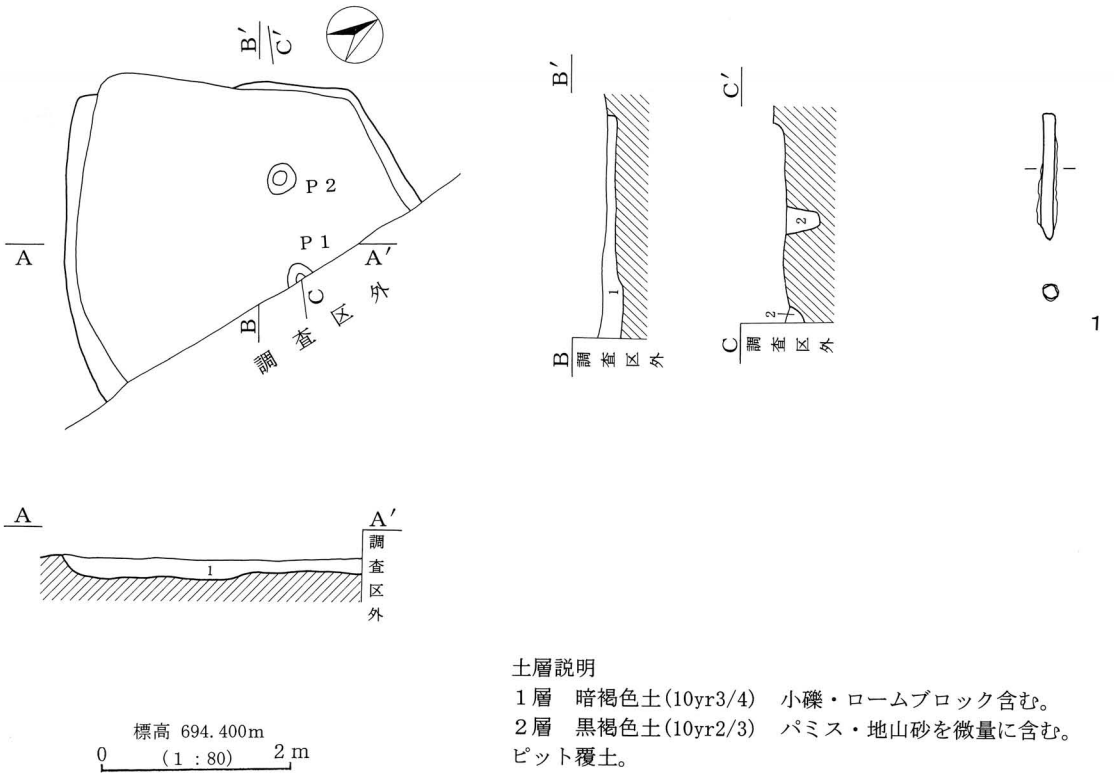
Ｔａ１号竪穴状遺構遺物観察表

Ｔａ２号竪穴状遺構

遺構は調査区北東端付近、い－２グリッド付近に位置し、遺構の東側一部は調査区域外となる。規模は西壁3.0m、北壁は調査規模で1.4m、南壁は調査規模で3.4m、深さは15～20cmを測る。埋土状況を示す覆土はロームブロック、細かい礫を含む暗褐色土１層が認められたが、遺構は浅く、土層から埋まった状況の詳細を確認するには至らなかった。

遺物は棒状の鉄製品が１点出土した。

時期については、周辺の遺跡状況及び遺構の形状、出土した遺物から中世（鎌倉・室町）としたい。



土層説明
１層　暗褐色土(10yr3/4)　小礫・ロームブロック含む。
２層　黒褐色土(10yr2/3)　パミス・地山砂を微量に含む。
ピット覆土。

Ｔａ２号竪穴状遺構実測図

番号	器　種	器　形	長さcm	幅cm	厚さcm	調　整	備　考
1	鉄製品	棒状鉄製品	5.85	0.75	0.84	頭部欠損	重量 7.88ｇ

Ｔａ２号出土遺物観察表

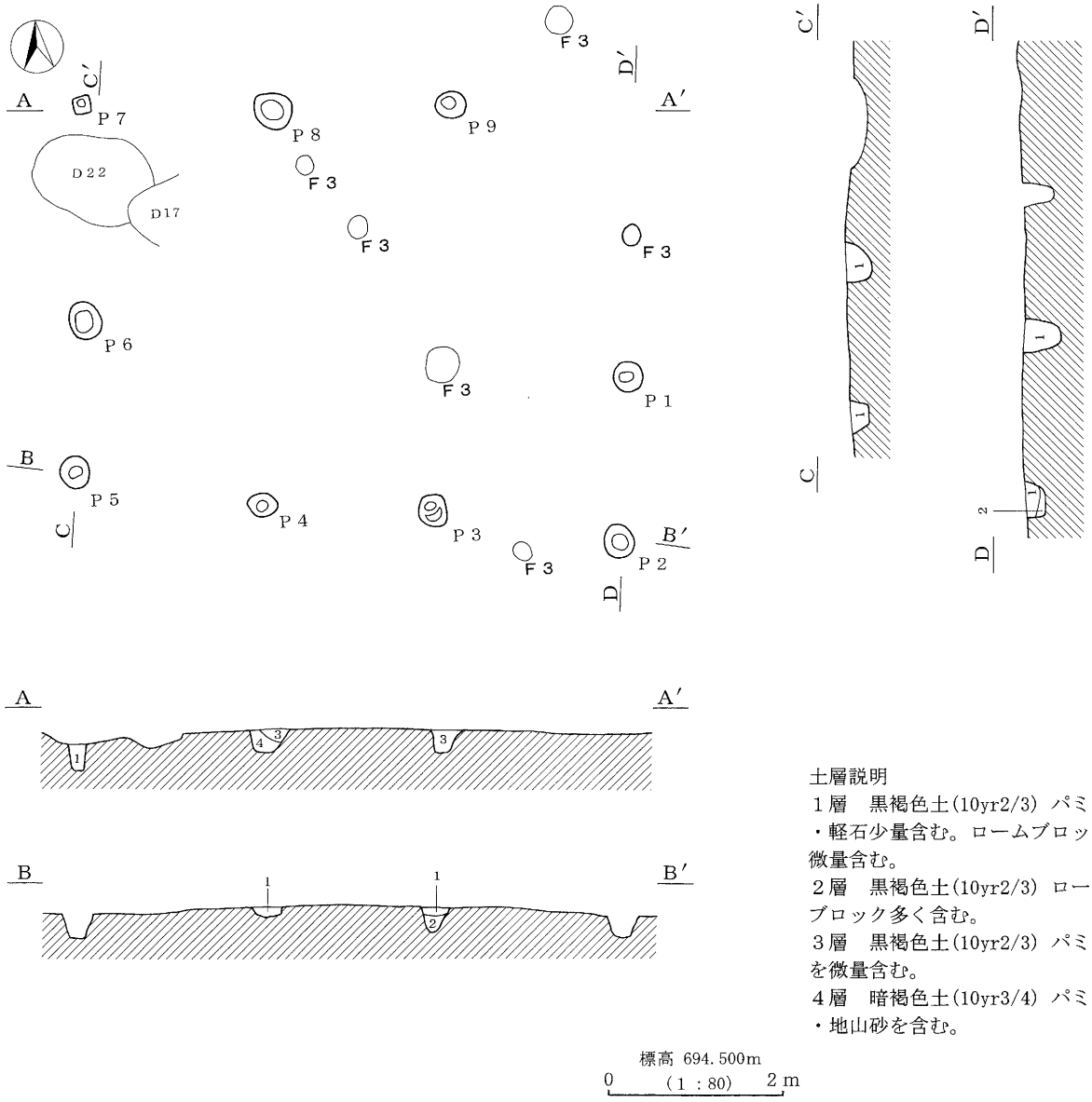
第２節　掘建柱建物址（F）

Ｆ１号掘建柱建物址

遺構は調査区西側の南、き－10グリッド付近に位置する。発見されたピットは９個で、配置状況から東西３間、南北２間の側柱である可能性が窺えるが、攪乱等によって北東に存在が予測されるピット２個が未発見であることから、推測となる。ピットの規模はＰ１－直径36cm、深さ40cm、Ｐ２－直径40cm、深さ28cm、Ｐ３－直径36cm、深さ28cm、Ｐ４－直径32cm、深さ15cm、Ｐ５－直径40cm、深さ32cm、Ｐ６－直径44cm、深さ33cm、Ｐ７－直径20cm、深さ15cm、Ｐ８－直径43cm、深さ27cm、Ｐ９－直径28cm、深さ26cmを測る。ピットの覆土は若干の違いは認められるが、地山に含まれるローム粒・ブロック、パミス、軽石等を含む黒褐色土または暗褐色土である。

本遺構からの遺物の出土は認められなかった。

時期については、周辺の遺構・遺物の状況から中世（鎌倉・室町）としたい。



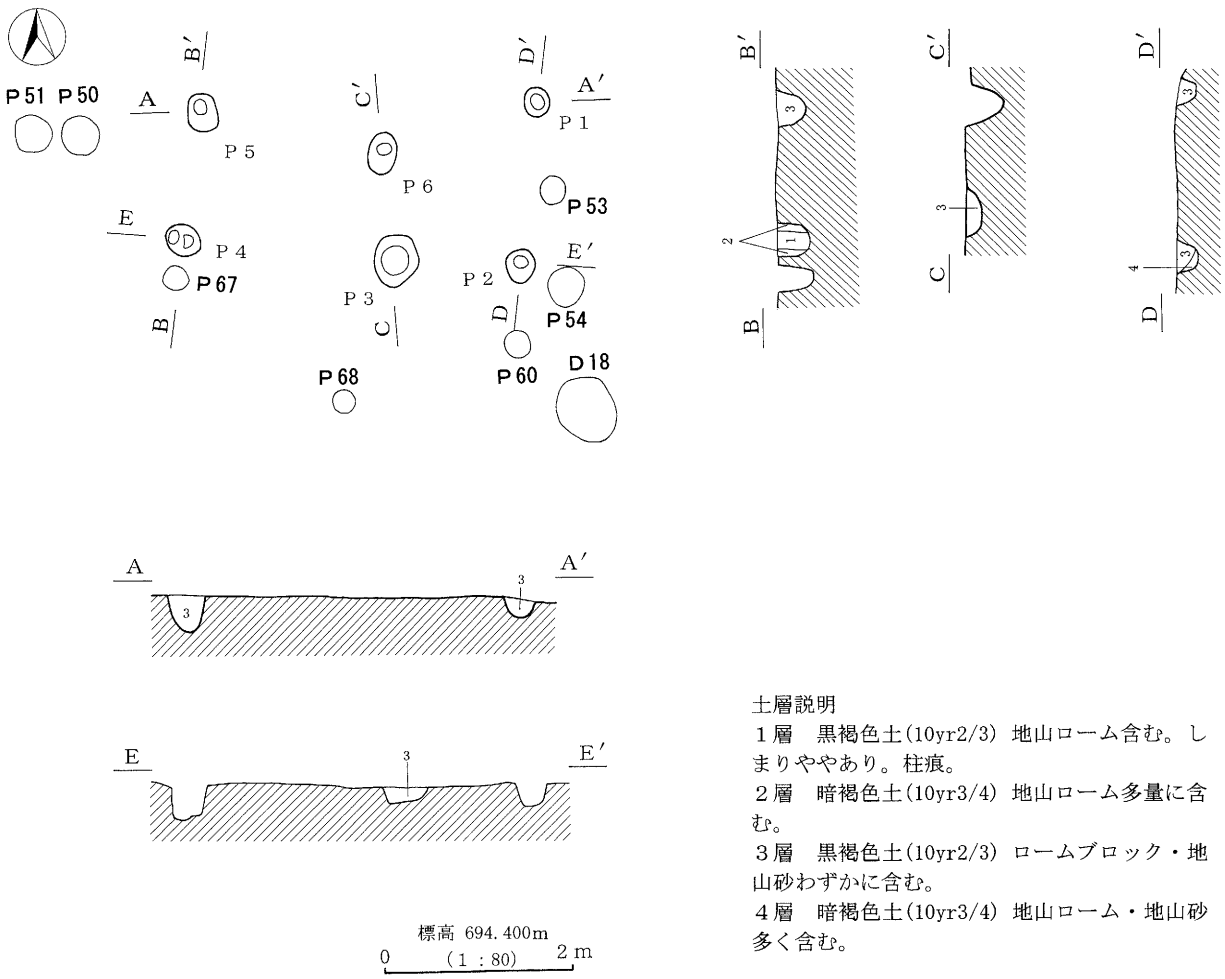
Ｆ１号掘建柱建物址実測図

Ｆ２号掘建柱建物址

遺構は調査区西側の南、か－９グリッド付近に位置する。遺構の存在する周辺は、調査区域内の中でも、土坑、ピットなどの遺構が密集する地域の中にあたる。 確認されたピットは６個で小型の側柱にも考えられるが、Ｐ６の位置が若干ずれることから、攪乱に破壊された北側にさらに規模が拡大していた可能性も考えられる。北側にさらに規模が拡大し、Ｐ６が本遺構に伴う状況であるとなると東西２間、南北２間以上の総柱の掘建柱建物址になると思われる。ピットの規模はＰ１－直径32cm、深さ20cm、Ｐ２－直径36cm、深さ21cm、Ｐ３－直径54cm、深さ18cm、Ｐ４－直径36cm、深さ37cm、Ｐ５－直径40cm、深さ35cm、Ｐ６－直径44cm、深さ25cmを測る。ピットの覆土は若干の違いは認められるが、地山に含まれるローム粒・ブロック、パミス、軽石、砂等を含む黒褐色土または暗褐色土である。

本遺構からの遺物の出土は認められなかった。

時期については、周辺の遺構・遺物の状況から中世（鎌倉・室町）としたい。



土層説明

１層　黒褐色土(10yr2/3) 地山ローム含む。しまりややあり。柱痕。

２層　暗褐色土(10yr3/4) 地山ローム多量に含む。

３層　黒褐色土(10yr2/3) ロームブロック・地山砂わずかに含む。

４層　暗褐色土(10yr3/4) 地山ローム・地山砂多く含む。

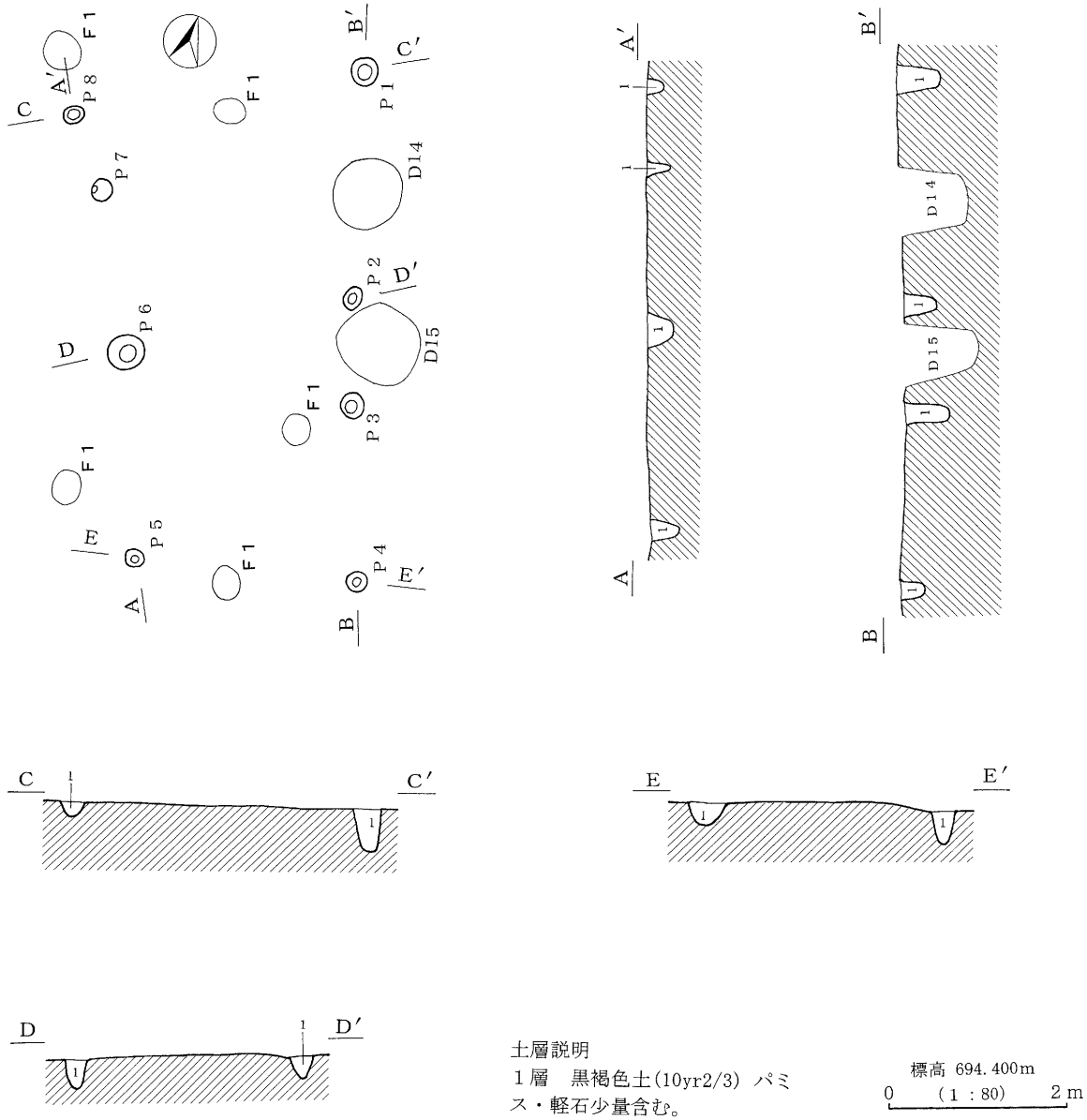
Ｆ２号掘建柱建物址実測図

Ｆ３号掘建柱建物址

遺構は調査区西側の南、き－10グリッド付近に位置する。遺構の存在する周辺は、調査区域内の中でも、土坑、ピットなどの遺構が密集する地域に含まれる。 確認されたピットは６個の側柱と推測できるが、これら６個のピットに囲まれた範囲内にはいくつかの単独ピットが存在することから、総柱の掘建柱建物址になる可能性も考えられる。ピットの規模はＰ１－直径28cm、深さ52cm、Ｐ２－直径28cm、深さ36cm、Ｐ３－直径24cm、深さ51cm、Ｐ４－直径25cm、深さ27cm、Ｐ５－直径21cm、深さ33cm、Ｐ６－直径42cm、深さ30cm、Ｐ７－直径25cm、深さ28cm、Ｐ８－直径26cm、深さ18cmを測る。ピットの覆土は、すべて同様の状況で地山に含まれるパミス、軽石を少量含む黒褐色土の単層である。平面形態は、規模の大小は認められるが、おおむね円形または楕円形である。

遺物は、Ｐ３の覆土内から巻き貝の貝殻が出土した。（写真図版　参照）

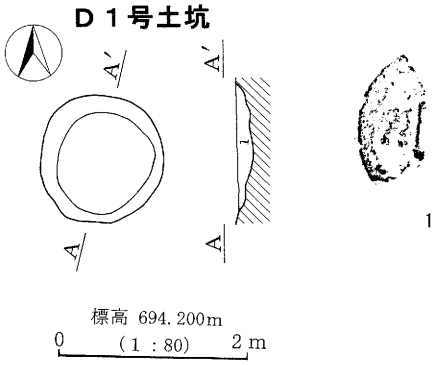
時期については、周辺の遺構・遺物の状況から中世（室町・鎌倉）としたい。



Ｆ３号掘建柱建物址実測図

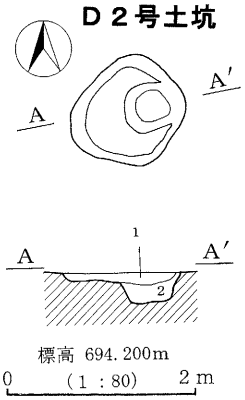
第３節　土坑（D）

Ｄ１号土坑



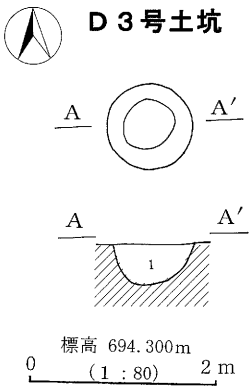
１層　黒褐色土(10yr2/3) パミス・１～５㎜径の軽石を少し含む。

Ｄ２号土坑



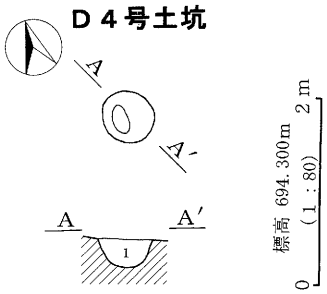
１層　黒褐色土(10yr2/3) パミス・１～５㎜径の軽石を少し含む。
２層　暗褐色土(10yr3/4) パミス・砂を少量含む。

Ｄ３号土坑



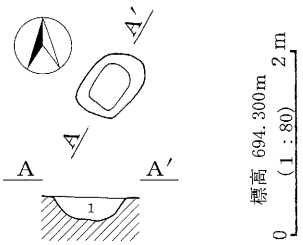
１層　暗褐色土(10yr3/3)　パミス、軽石少量含む。

Ｄ４号土坑



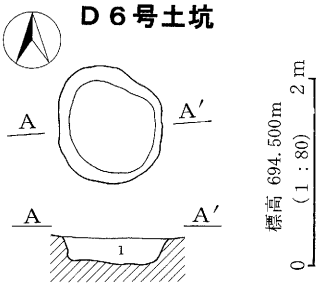
１層　にぶい黄褐色土(10yr4/3) パミス・礫・地山砂混入。

Ｄ５号土坑



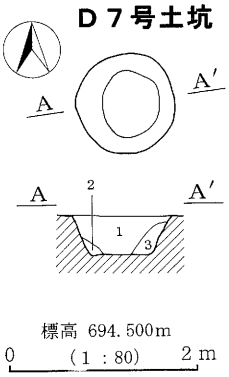
１層　暗褐色土(10yr3/3) パミス・地山砂多く含む。

Ｄ６号土坑



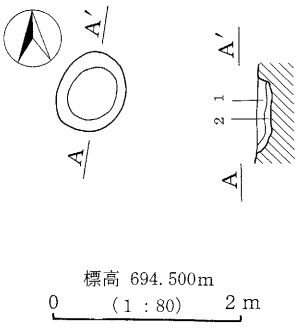
１層　暗褐色土(10yr3/3) ロームブロック・砂・パミスを含む。

Ｄ７号土坑



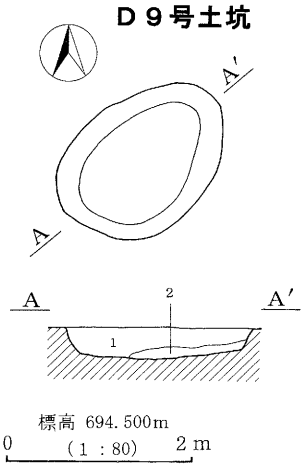
１層　暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石微量含む。
２層　暗褐色土(10yr3/3) 砂多く混入。
３層　褐色土(10yr4/4) 地山砂・パミス含む。

Ｄ８号土坑



１層　暗褐色土(10yr3/3) パミス微量に含む。
２層　にぶい黄褐色土(10yr4/3) 地山ローム多く含む。

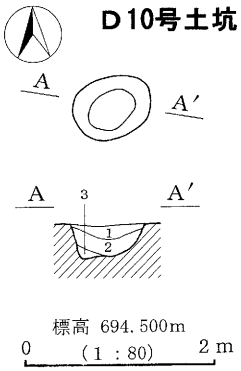
Ｄ９号土坑



１層　暗褐色土(10yr3/4) パミス・１～５㎜径の軽石を含む。
２層　褐色土(10yr4/4) 地山砂多く含む。

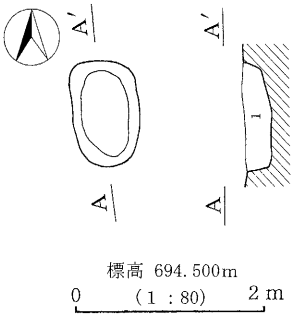
Ｄ１～Ｄ９号土坑実測図

D10号土坑



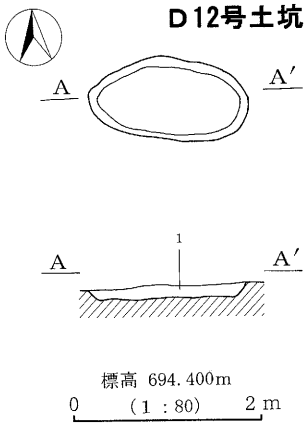
1層　黒褐色土(10yr2/3) パミスを微量に含む。
2層　暗褐色土(10yr3/3) 地山砂ブロック混入。
3層　褐色土(10yr4/4) 地山崩落層。

D11号土坑



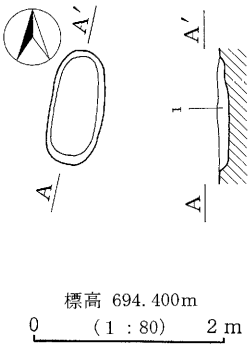
1層　暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石・礫・地山砂を多く含む。

D12号土坑



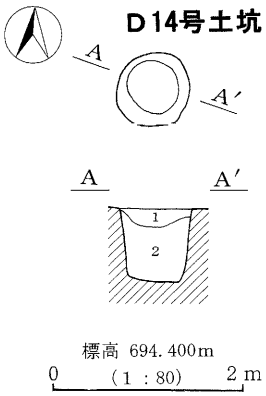
1層　暗褐色土(10yr3/3) パミス・軽石少量含む。地山ロームブロック微量含む。

D13号土坑

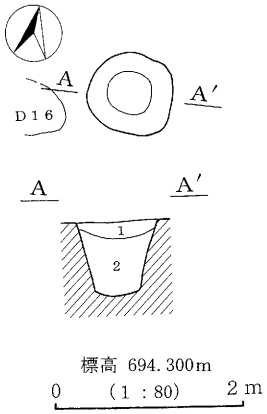


1層　暗褐色土(10yr3/3) パミス・1～5㎜径の軽石を微量含む。

D14号土坑

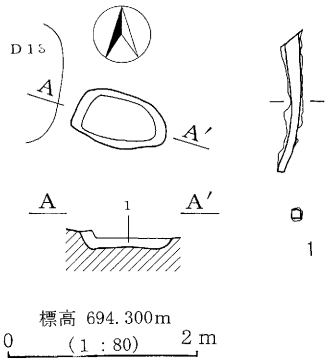


D15号土坑



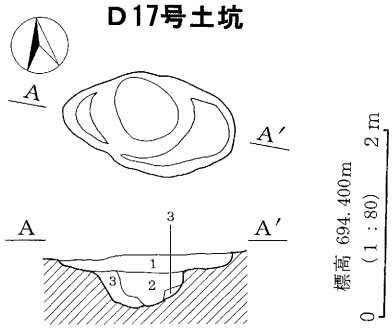
1層　黒褐色土(10yr2/3) 軽石・小礫・砂を含む。
2層　暗褐色土(10yr3/4) 砂が層上方に堆積。しまり弱い。

D16号土坑



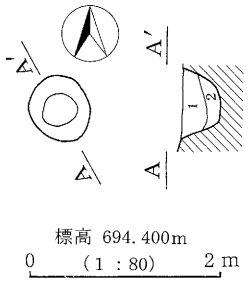
1層　暗褐色土(10yr3/3) パミス多く含む。

D17号土坑



1層　暗褐色土(10yr3/3) パミス・1～5㎜径の軽石を多く含む。
2層　暗褐色土(10yr3/3) パミス・1～5㎜径の軽石・地山砂を多く含む。
3層　褐色土(10yr4/4) 軽石・地山砂混入。崩落層。

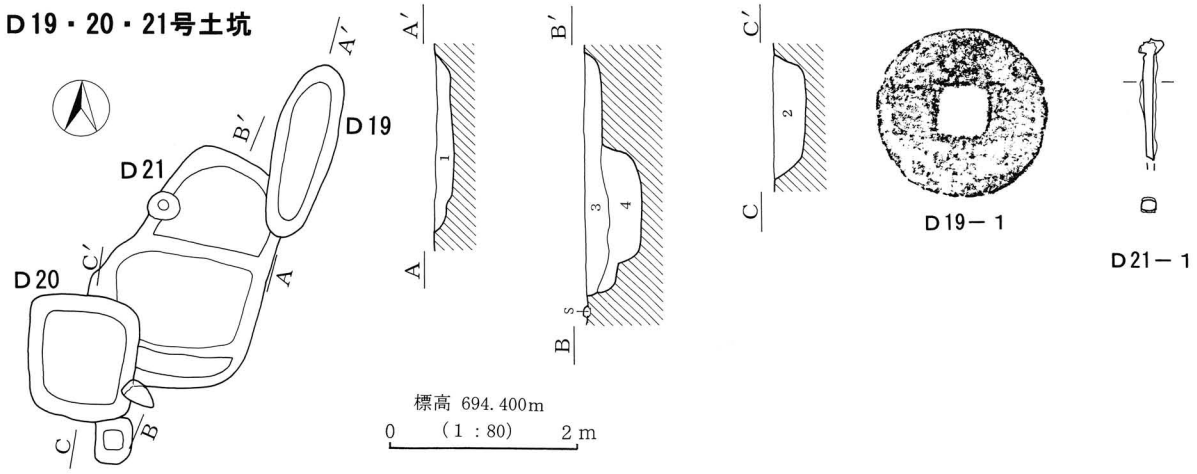
D18号土坑



1層　暗褐色土(10yr3/3) パミス・ロームブロック含む。
2層　黒褐色土(10yr2/3) 地山砂多く含む。

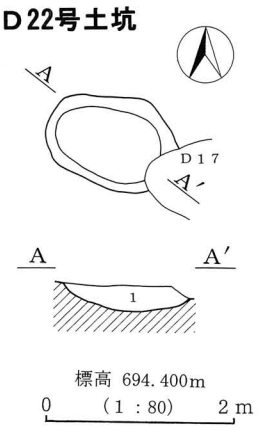
D10～D18号土坑実測図

D19・20・21号土坑



1層　黒褐色土(10yr2/3)　D19覆土。パミス・軽石多く含む。しまりあり。
2層　暗褐色土(10yr3/3)　D20覆土。パミス・軽石多量に含む。
3層　暗褐色土(10yr3/3)　D21覆土。パミス多く含む。ロームブロックを少量含む。小礫含む。
4層　暗褐色土(10yr3/3)　D21覆土。地山砂多く混入。小礫含む。

D22号土坑



1層　暗褐色土(10yr3/3)　パミス、地山ロームブロック少量含む。

D19～D22号土坑実測図

番号	器　種	製品名	外形cm	内径cm	厚みcm	重量g	備　考
D１－１	銅製品	古銭	－	－	0.12	0.49	文字不明・75％欠損
番号	器　種	製品名	外形cm	内径cm	厚みcm	重量g	備　考
D21－１	鉄製品	角釘	4.55	1.07	0.45	3.68	先端部欠損

番号	器　種	製品名	外形cm	内径cm	厚みcm	重量g	備　考
D19－１	銅製品	古銭	2.29	0.64	0.1	1.99	文字不明
番号	器　種	製品名	外形cm	内径cm	厚みcm	重量g	備　考
D16－１	鉄製品	角釘	6.22	1.2	0.7	6.55	頭・先端部欠損

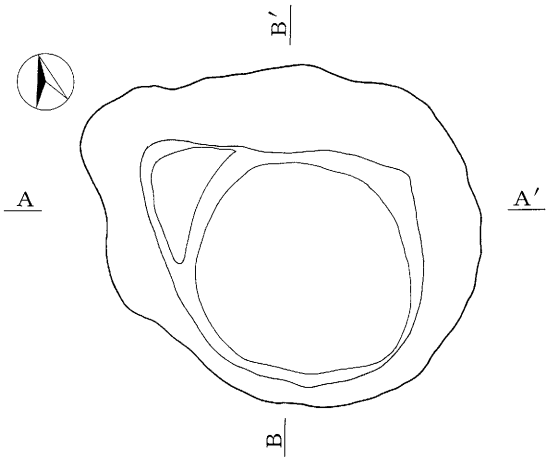
土坑出土遺物観察表

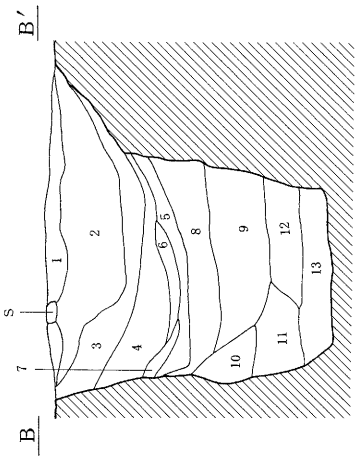
番号	遺構名	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形態	備　考
1	D１	1.4	1.32	0.16	円形	古銭片出土
2	D２	1.3	1.2	0.34	円形	
3	D３	0.98	0.96	0.44	円形	
4	D４	0.56	0.52	0.35	円形	
5	D５	0.76	0.56	0.27	楕円形	
6	D６	1.28	1.12	0.28	円形	
7	D７	1.04	1.02	0.42	円形	
8	D８	0.84	0.72	0.16	円形	
9	D９	2	1.44	0.34	楕円形	
10	D１０	0.8	0.68	0.41	楕円形	
11	D１１	1.12	0.7	0.27	楕円形	

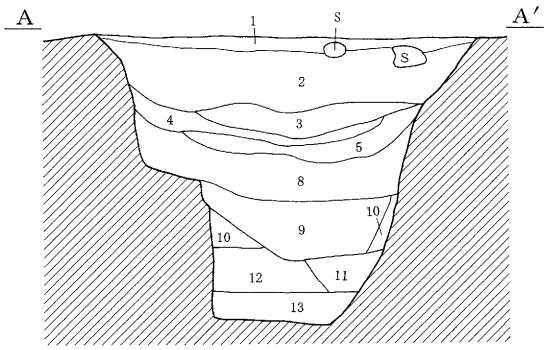
番号	遺構名	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形態	備　考
12	D１２	1.76	0.88	0.14	方形	
13	D１３	1.2	0.56	0.12	楕円形	
14	D１４	0.8	0.76	0.81	円形	
15	D１５	0.88	0.86	0.81	円形	
16	D１６	0.98	0.56	0.13	楕円形	鉄釘出土
17	D１７	1.76	1.08	0.73	楕円形	
18	D１８	0.62	0.6	0.44	円形	
19	D１９	1.88	0.68	0.18	楕円形	古銭出土
20	D２０	1.3	1.14	0.33	方形	
21	D２１	2.6	1.6	0.92	不整形	角釘出土
22	D２２	1.52	1	0.28	楕円形	

土坑観察表

第４節　井戸跡







標高 694.200m

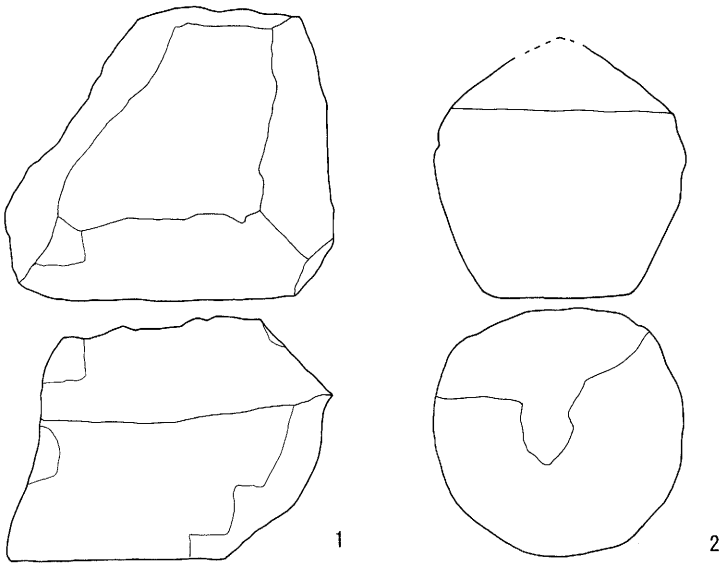
0　（1：80）　2m

1層　黒褐色土(10yr2/3) 砂・軽石・小礫を含む。
2層　暗褐色土(10yr3/3) 砂質土含む。軽石・小礫を含む。しまりややあり。
3層　黒褐色土(10yr2/3) 砂質土含む。軽石・小礫を含む。
4層　褐色土(10yr4/4) 砂・ロームブロック・軽石を含む。
5層　暗褐色土(10yr3/3) 砂・小礫を多く含む。しまりなし。
6層　暗褐色土(10yr3/3) ロームブロック・軽石・礫混入。
7層　暗褐色土(10yr3/4) 砂・ロームブロック多量に混入。
8層　暗褐色土(10yr3/4) 砂多量に含む。小礫多く含む。
9層　暗褐色土(10yr3/3) ロームブロック含む。礫少量含む。
10層　にぶい黄褐色土(10yr4/3) 地山崩落層。
11層　暗褐色土(10yr3/4) 地山ローム・砂礫を混入。
12層　黄褐色土(10yr5/8) 砂層。しまりなし。
13層　暗褐色土(10yr3/4) 砂礫・地山ロームブロック混入。

遺構は調査区の東側お－４グリッド付近に位置する。規模は確認面での東西径４m、南北径3.6m、深さは最深部で確認面から３mを測る。形状は北西部分が僅かに張り出す不整円形である。堀り込み状況は、確認面付近からややすり鉢状に傾斜し、西側の一部を除き、深さ80cm付近でやや傾斜角が急になり底面に至る。西側は、深さ1.4m地点に半円形のテラスが存在し、そこから、ほぼ垂直に近い角度で底面に至る。

遺物は埋め戻し時に投げ込まれたと考えられる五輪塔の一部が２個出土した。

時期は、五輪塔及び、周辺の遺跡の状況から、隣接する竪穴状遺構等の遺構とほぼ時期の等しい、中世（室町・鎌倉）としたい。



1　高さ 19.6 cm
　　残幅 26.2 cm
　　重さ 9,660 g

2　高さ 19.4 cm
　　残幅 19.8 cm
　　重さ 5,600 g

井戸跡・井戸跡出土五輪塔実測図

第５節　柱列

１号柱列

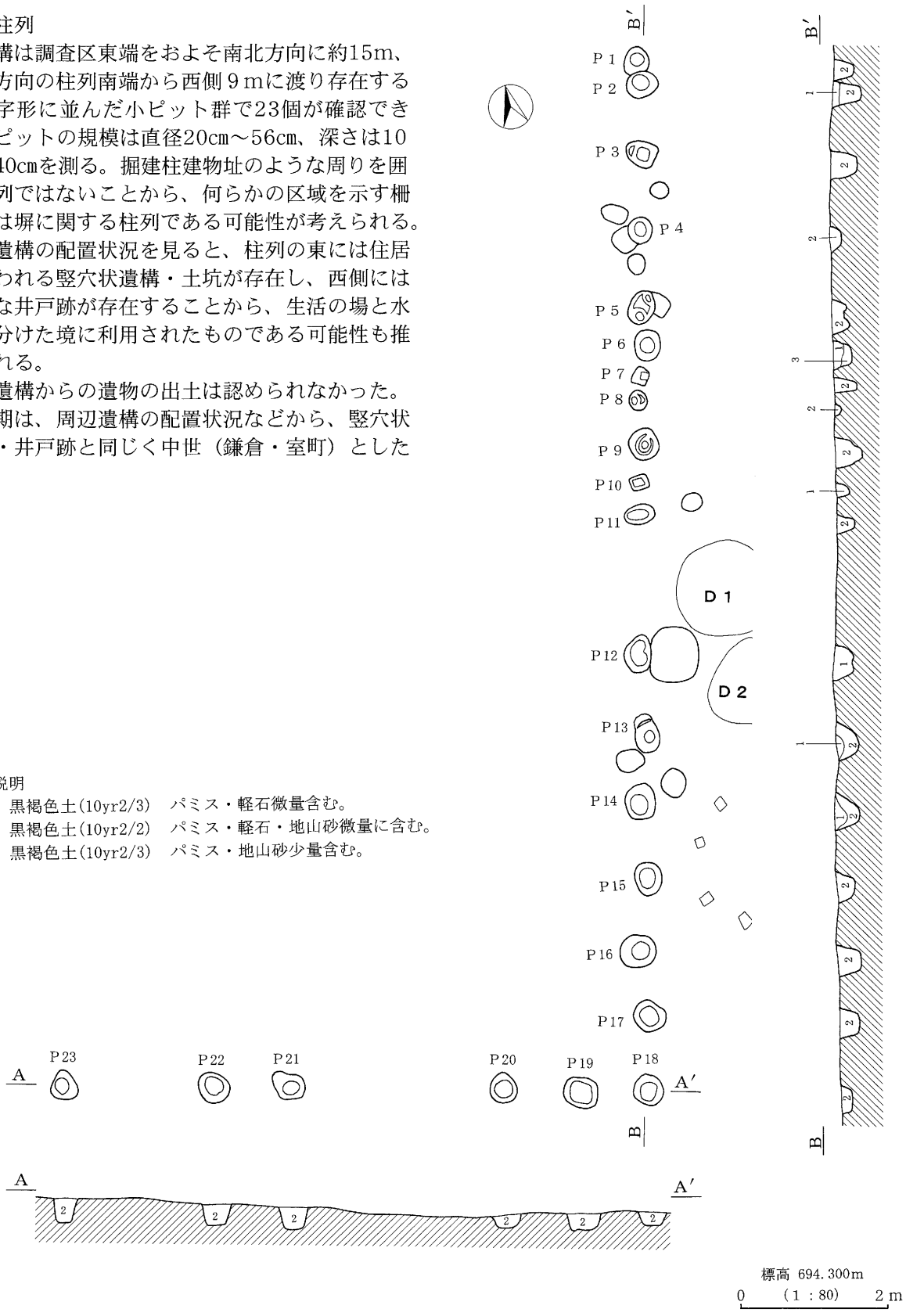
遺構は調査区東端をおよそ南北方向に約15m、南北方向の柱列南端から西側９ｍに渡り存在する逆Ｌ字形に並んだ小ピット群で23個が確認できた。ピットの規模は直径20cm～56cm、深さは10cm～40cmを測る。掘建柱建物址のような周りを囲む配列ではないことから、何らかの区域を示す柵列又は塀に関する柱列である可能性が考えられる。周辺遺構の配置状況を見ると、柱列の東には住居と思われる竪穴状遺構・土坑が存在し、西側には巨大な井戸跡が存在することから、生活の場と水場を分けた境に利用されたものである可能性も推察される。

本遺構からの遺物の出土は認められなかった。

時期は、周辺遺構の配置状況などから、竪穴状遺構・井戸跡と同じく中世（鎌倉・室町）としたい。

土層説明

１層　黒褐色土(10yr2/3)　パミス・軽石微量含む。
２層　黒褐色土(10yr2/2)　パミス・軽石・地山砂微量に含む。
３層　黒褐色土(10yr2/3)　パミス・地山砂少量含む。



１号柱列実測図

番号	遺構名	平面形	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
1	Ｐ１	円形	40	28	
2	Ｐ２	円形	39	39	
3	Ｐ３	不整円形	36	37	
4	Ｐ４	円形	37	36	
5	Ｐ５	楕円	48	24	
6	Ｐ６	円形	42	23	
7	Ｐ７	方形	24	25	
8	Ｐ８	円形	25	30	
9	Ｐ９	隅丸方形	42	10	
10	Ｐ１０	方形	20	34	
11	Ｐ１１	楕円形	40	22	
12	Ｐ１２	不整方形	52	28	

番号	遺構名	平面形	径(cm)	深さ(cm)	備　　考
13	Ｐ１３	隅丸長方形	56	30	
14	Ｐ１４	隅丸長方形	52	36	
15	Ｐ１５	円形	44	24	
16	Ｐ１６	円形	42	32	
17	Ｐ１７	不整方形	40	28	
18	Ｐ１８	円形	41	28	
19	Ｐ１９	隅丸長方形	43	18	
20	Ｐ２０	円形	39	22	
21	Ｐ２１	不整方形	36	30	
22	Ｐ２２	円形	42	28	
23	Ｐ２３	不整円形	40	32	

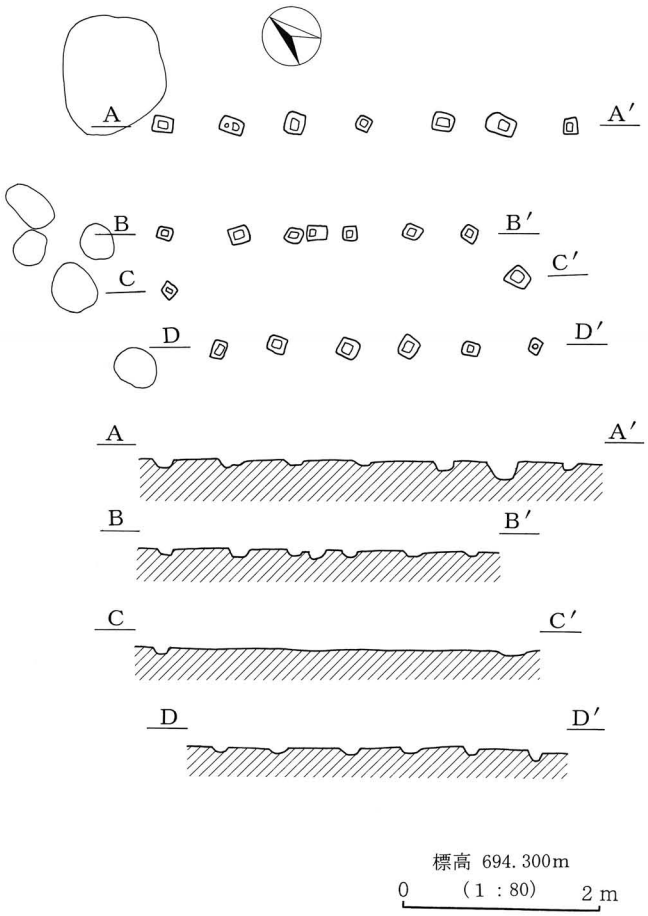
１号柱列ピット観察表

２号柱列

遺構は調査区の東、か－２グリッド付近に位置する。確認されたピット列は小ピットの３列で、22個が確認できた。規模は直径20㎝、深さ20㎝内外で、平面形態は方形である。ピット配置の平面状況が、整然と３列長方形を示すことから、遺構の性格は１号柱列の境界を示すものと異なり、建物址である可能性が考えられる。

本遺構から遺物は出土しなかった。

時期はピットの形状、周辺の状況から中世（鎌倉・室町）としたい。



２号柱列実測図

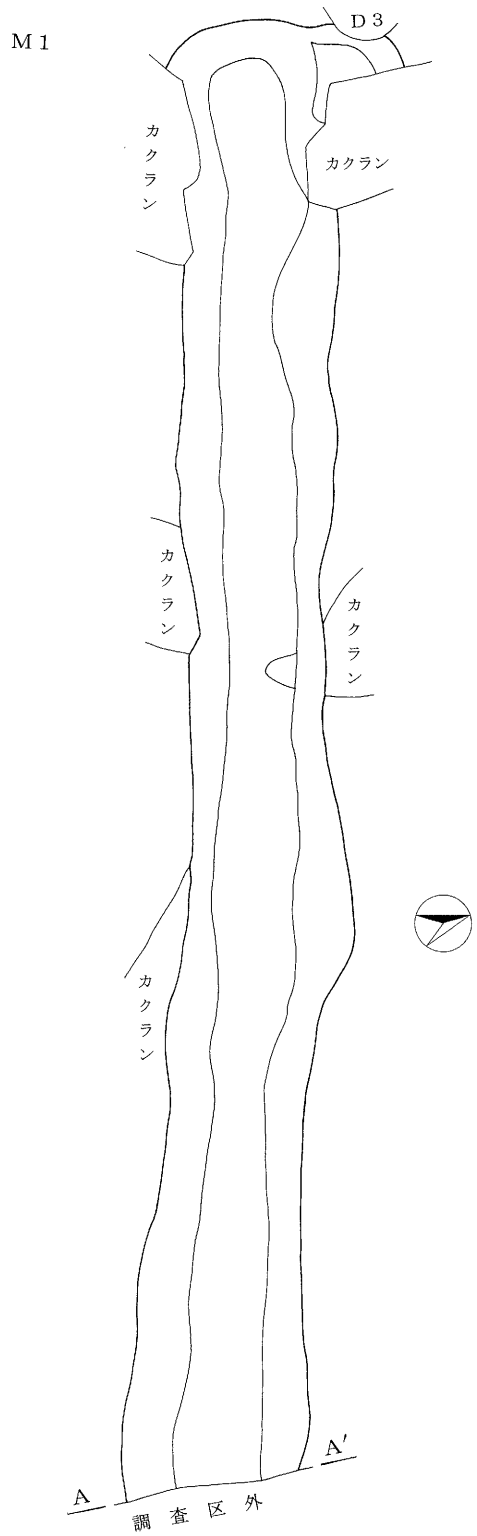
第６節　溝状遺構

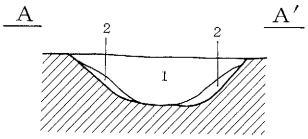
M１号溝状遺構

遺構は調査区東側の南方に位置し、き－５グリッドからく－２グリッドにかけて存在する。東側に延びると考えられるが、調査区域外となる。規模は長さ15.2m、幅2.0m内外、深さ50cmを測る。溝の掘り込み状況は、擂り鉢状のやや緩やかな傾斜で底面にいたり、底には60cmから95cm幅の平らな部分が存在する断面台形状を示す。

遺物は出土しなかった。

時期は、周辺の状況から中世（鎌倉・室町）としたい。





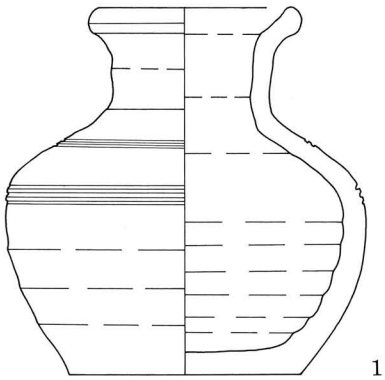
土層説明

１層　暗褐色土(10yr3/3)　パミス・小礫を含む。
２層　褐色土(10yr4/4)　　ロームブロック多く含む。地山崩落層。

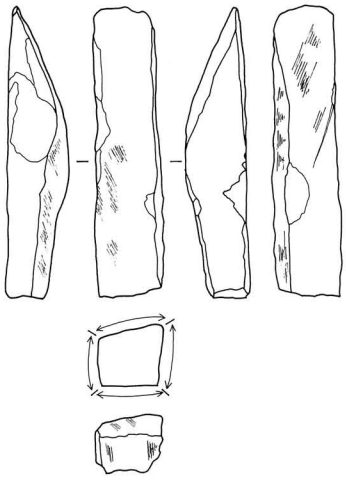
標高 694.300m
0　(1：80)　4m

M１号溝状遺構実測図

第７節　遺構外遺物



1



2

遺構外遺物実測図

番号	器　種	器　形	長さcm	幅cm	厚さcm	調　整	備　考
1	陶器	小型壷	5.6	6.2	9.8	ロクロ使用　薄い鉄釉　肩部付近ヘラによる沈線　底部回転糸切り後未調整	茶入れの可能性あり
番号	器　種	器　形	長さcm	幅cm	厚さcm	調　整	備　考
2	石製品	砥石	11.4	2.4	2.5	５面砥面	重量 102.16ｇ

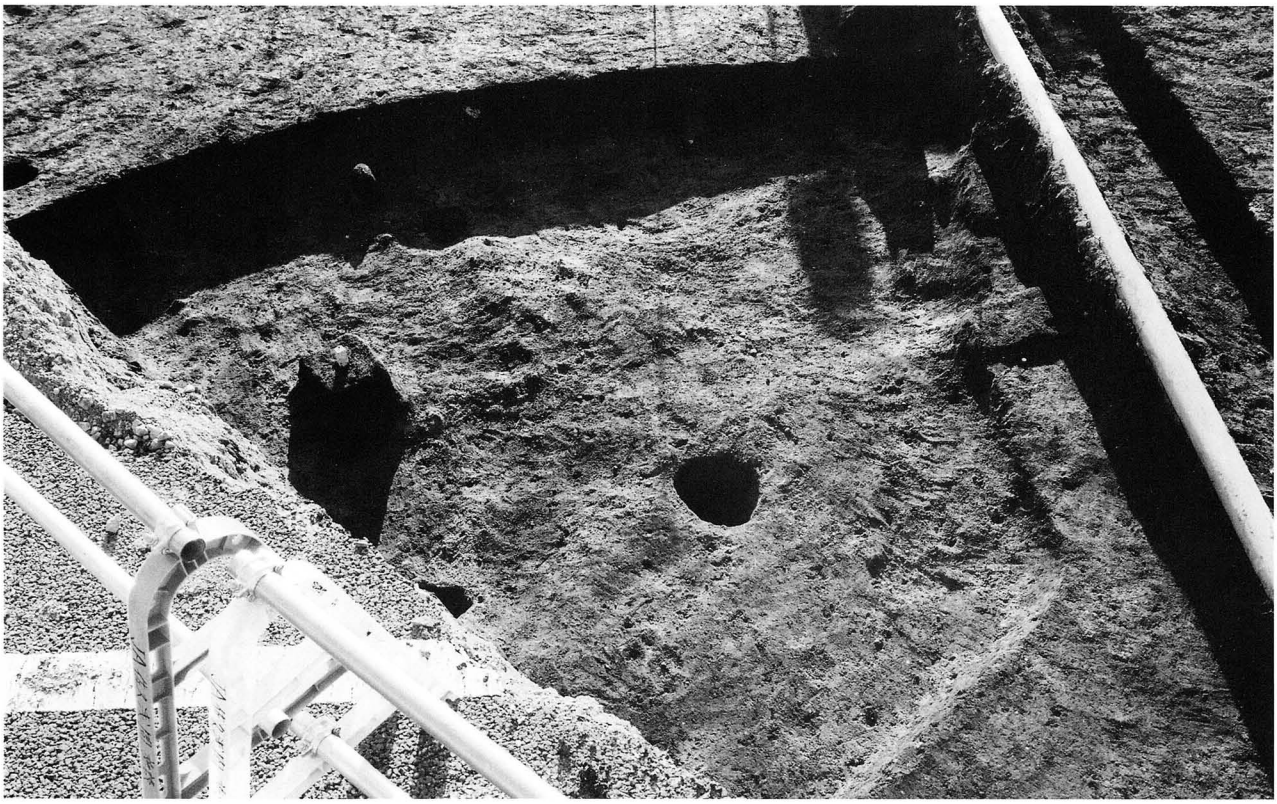
遺構外遺物観察表

図版1

番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ全景（東から）

Ｔａ１号竪穴状遺構全景（東から）

図版2



Ta２号竪穴状遺構全景（北東から）

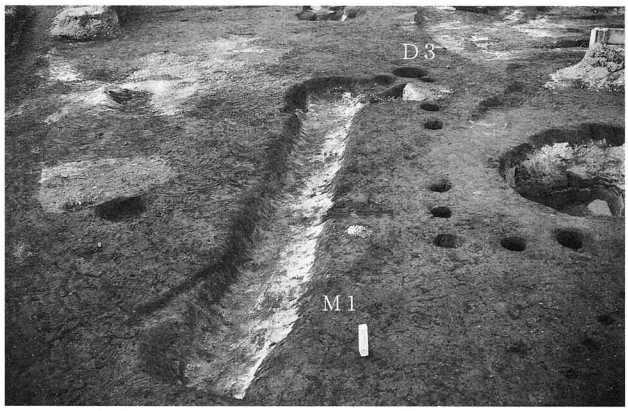
Ｆ１号掘建柱建物址、D12・17・22 号土坑（東から）

Ｆ２号掘建柱建物址全景（南から）

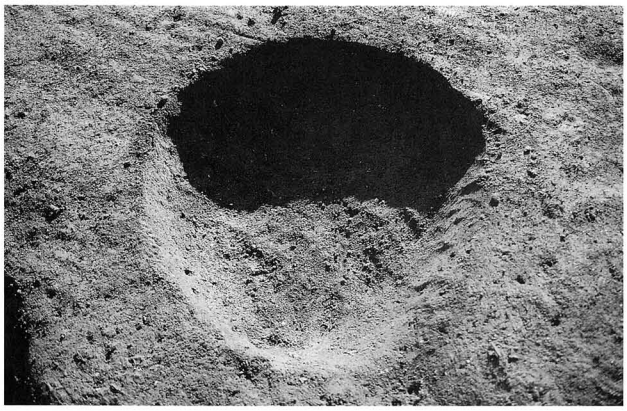
Ｆ３号掘建柱建物址全景（東から）

Ｄ１号土坑全景

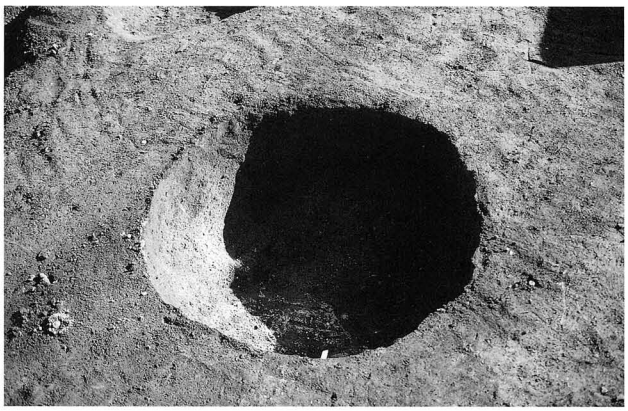
Ｄ２号土坑全景



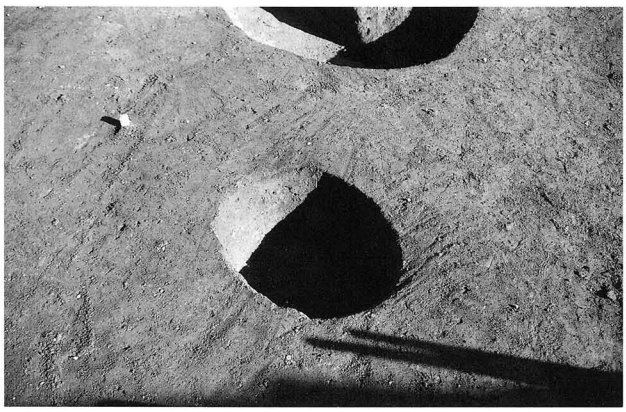
Ｄ３号土坑、Ｍ１号溝状遺構全景（東から）



Ｄ６号土坑全景

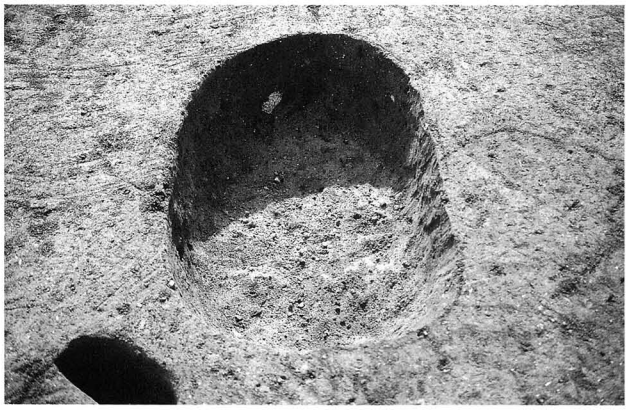


Ｄ７号土坑全景



Ｄ８号土坑全景

Ｄ９号土坑全景

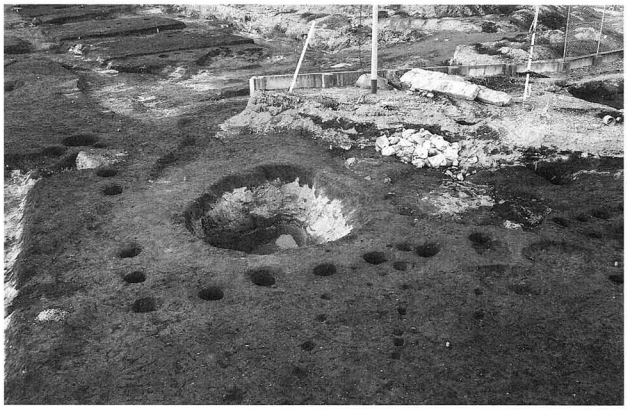


Ｄ11 号土坑全景

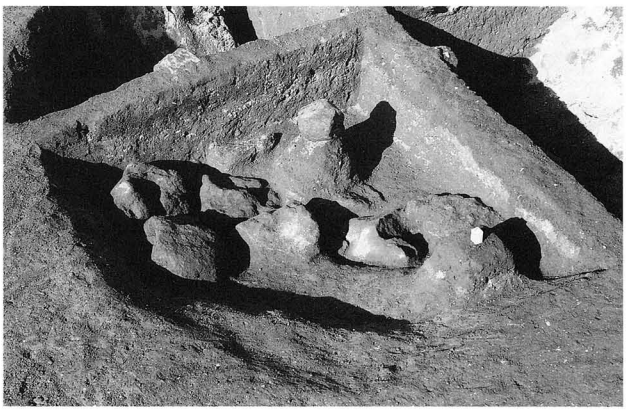
Ｄ14･18･19･20･21 号土坑全景（東から）

図版4

D13・15・16 号土坑全景（東から）

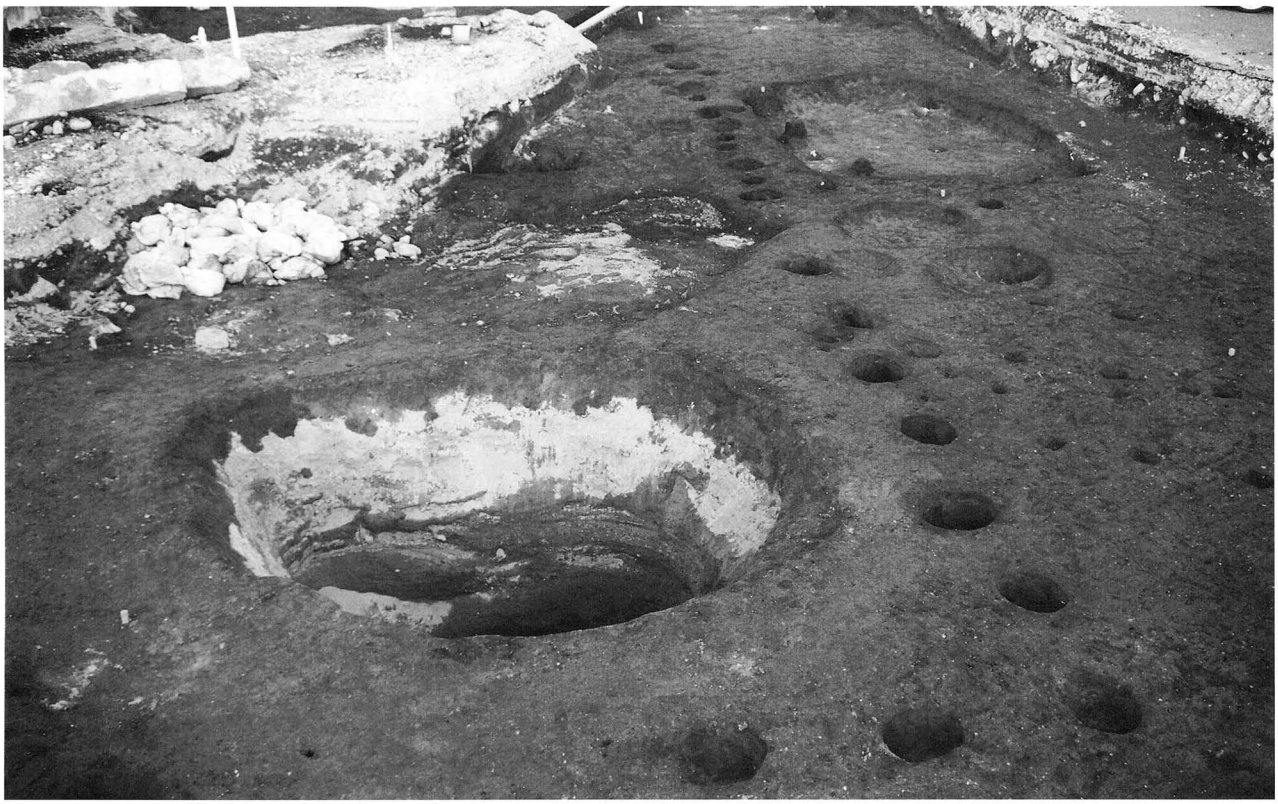


井戸跡周辺全景（東から）

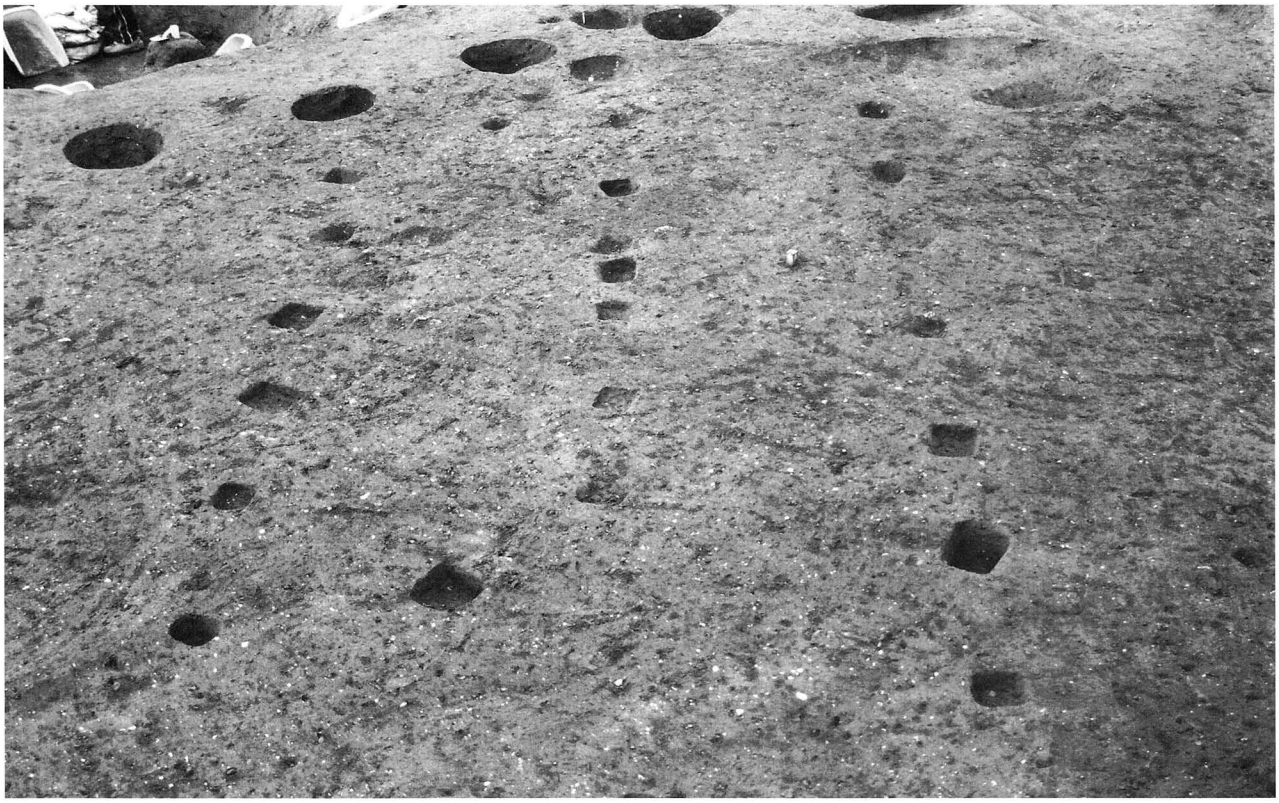


井戸跡調査状況

井戸跡全景



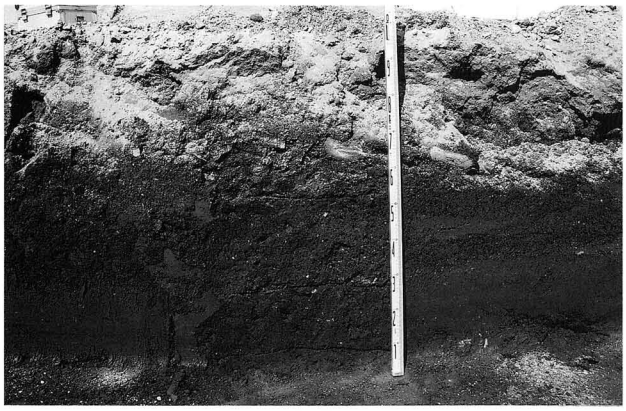
1号柱列全景（南から）



2号柱列全景（東から）

図版6

調査開始前全景（東から）

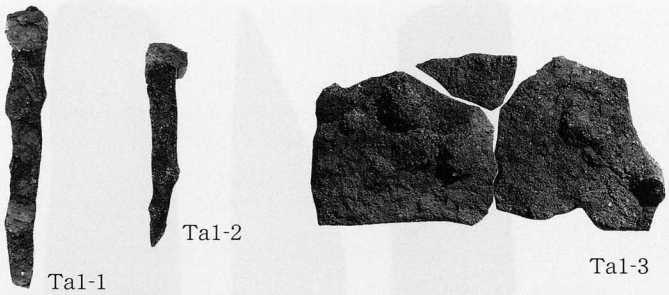


番屋前遺跡Ⅳ土層状況

試掘調査状況（北から）

試掘調査遺構検出状況１

試掘調査遺構検出状況２（南から）


Ta1-1

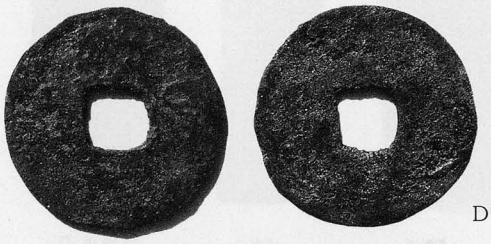
Ta1-2

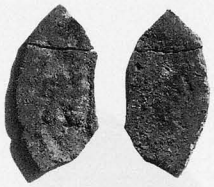
Ta1-3

Ta2-1

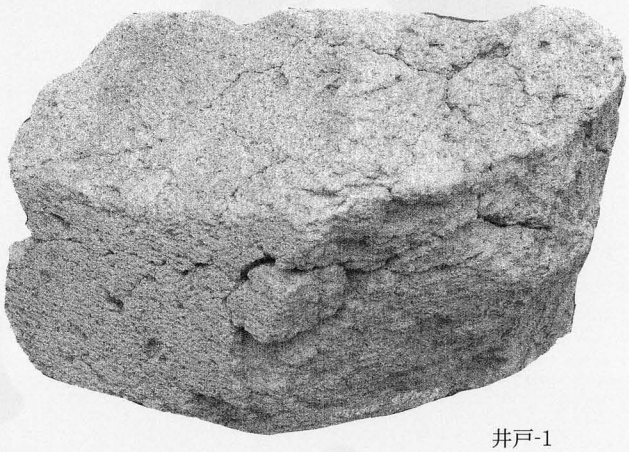
D16-1

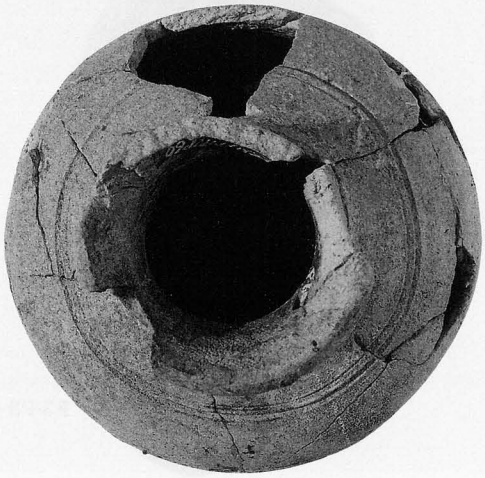
D21-1


D19-1

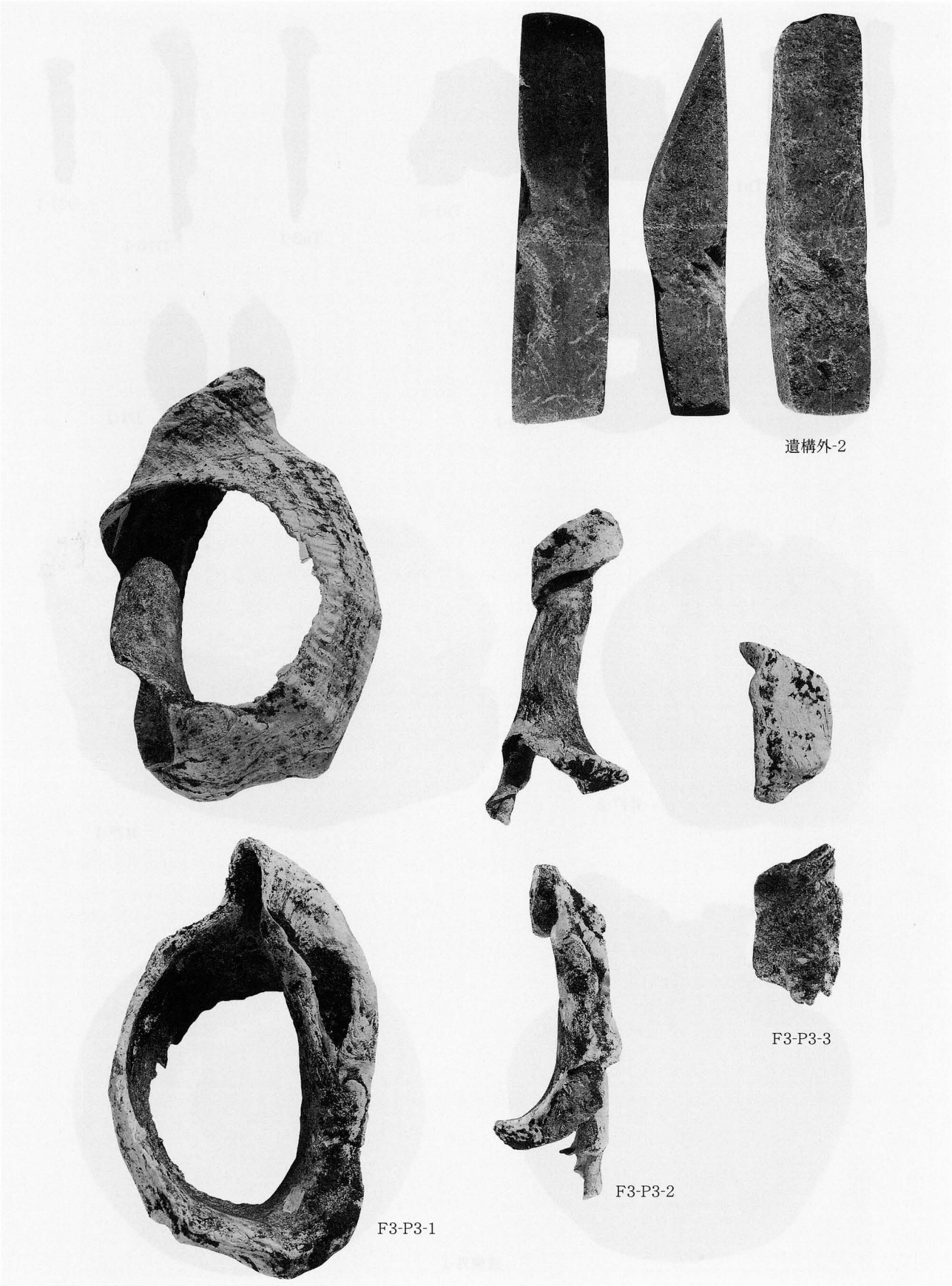

D1-1

井戸-2


井戸-1


遺構外-1

番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ出土遺物



番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ出土遺物

報告書抄録

書名	番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ
ふりがな	ばんやまえいせきぐん　ばんやまえいせきよん
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第194集
編著者名	出澤　力
編集・発行機関	佐久市教育委員会　社会教育部　文化財課
発行年月日	2011.3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ
遺跡所在地	佐久市猿久保882-1
遺跡番号	佐久市　　248
北緯	北緯36度15分23秒
東経	東経138度28分53秒
調査期間	平成21(2009)年11月20日～平成21(2009)年12月25日(現場) 平成22(2010)年6月16日～平成23(2011)年3月16日(整理作業)
調査面積	1,063㎡
調査原因	ＪＡ佐久浅間本所建設工事
種別	散布地
主な時代	弥生・奈良・平安・中世
遺跡概要	集落址-中世-竪穴状遺構+掘立柱建物址+土坑+井戸跡+柱列+溝状遺構－金属製品+石製品+古銭+陶器+巻貝
特記事項	調査によって、本調査地域は、中世を中心とする集落跡であることが確認でき、建物址と考えられる竪穴状遺構、土坑、生活には欠かせない水を供給する井戸跡などが発見された。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第194集
番屋前遺跡群　番屋前遺跡Ⅳ

編集・発行　長野県佐久市教育委員会
長野県佐久市中込3056

文化財課
長野県佐久市志賀5953
電話　0267-68-7321

印刷所　キクハラインク有限会社